論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※　甲　第　　号

氏　　名　杉本啓之

論　文　題　目

The prognostic factors and trajectory of HRQOL in patients with pancreatic cancer who received psychiatric intervention

(精神医学的介入を受けた膵癌患者の HRQOL の経時的変化と予後因子)

論文審査担当者

主　査　委員　名古屋大学教授　郁野正人

委員　名古屋大学教授　小寺泰弘

委員　名古屋大学教授　安藤雄一

指導教授　名古屋大学教授　後藤秀実

論文審査の結果の要旨

今回、膵癌患者を対象に、精神的苦痛の軽減、QOL の維持を期待した早期からの精神医学的介入下における、健康関連 QOL（Health related quality of life: HRQOL）の経時的変化、および HRQOL 各尺度と予後との関連について検討を行った。治療開始半年後の HRQOL は複数の尺度で保たれていたが、死亡日から３ヶ月前の時点では約半数の項目が baseline に比べ有意に増悪を認めた。HRQOL 各尺度と予後との関連では、pain の baseline score が performance status 不良、臨床病期 IV 期とともに有意な予後予測因子であるという結果を得た。

本研究に対し、以下の点を議論した。

１．身体的な増悪を認める死亡３ヶ月前時点において、感情面や睡眠障害を反映する項目が保たれている点は精神医学的介入の効果と期待されるが、本研究では研究参加同意を得た患者に対してのみ HRQOL 評価を行っており、介入を行わなかった患者との比較はできず、精神医学的介入の HRQOL 改善効果について言及するためには、ランダム化比較試験（RCT）を行う必要がある。

２．コントロール不良な疼痛が不安や抑うつ症状に影響を与えるだけでなく、不安や抑うつの存在が疼痛を悪化させることが報告されている。また、治癒不能癌患者の抑うつ、適応障害に対する精神科治療の有用性も報告されており、精神医学的介入は pain score の改善に寄与しうると考えるが、１．と同様に RCT での証明が必要と考える。

３．根治的外科的切除施行群と非施行群との baseline における患者特性について比較検討した結果、根治的外科的切除施行群において有意に年齢が高く、非施行群において臨床病期 IV 期が有意に多かったが、performance status に差は認めなかった。baseline において、根治的外科的切除施行群の患者特性は、非施行群に比べて良いとはいえない。

本研究は、膵癌患者に対する精神医学的介入の結果を HRQOL の観点から評価し有用な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙２

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第　　号	氏　名　　杉本啓之
試験担当者	主　査　郁野正人　小寺泰弘　安藤雄一 指導教授　後藤秀実	

（試験の結果の要旨）

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

１．精神医学的介入のHRQOL改善効果について
２．精神医学的介入のpain scoreを改善効果について
３．初期治療別の患者特性に違いについて

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、消化器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。